

地元学の手法による水の行方調べ

ー白地図を使い、地域の水を取り巻く情報を集める手法ー

2011.11.19

出川 真也

里地ネットワーク研究員/(株)森里川海生業研究所

1、地元学について

- (1) 多様な人々の参加とまなざしにより地域環境を再発見
ー地元で学び、地元と共に学ぶー
- (2) 集水域を基本単位として上流から下流まで集落周辺をくまなく探索
- (3) 調査・研究だけでなく、活用や実践活動を重視
- (4) 自然環境だけでなく、地域の生活文化へのまなざし

2、集水域の把握と「水の行方マップ」の作成

- (1) 現地調査前の白地図作業（推奨する地図の範囲や大きさについて）
- (2) 三角点と集水域の把握
- (3) 河川、小川、沢、水路、ため池等の色塗り作業をみんなで

3、水辺の情報収集活動ー現地調査とその視点ー

- (1) 調査道具について
- (2) 源流から下流を探索（地元住民の案内でみんなでワイワイ）
- (3) 自然環境調査：水辺の生き物調べ、植生調査等
 - ・子どもたちの活躍、専門家の役割と活用
- (4) 社会環境調査：自然資源の活用法、食文化、生業、言伝え、自然神等生活文化調べ
 - ・地域の古老からの情報収集
 - ・水環境の今とむかし
 - ・暮らしに着目することで深まる理解

4、マップ作成を通じた保全再生活動の検討・計画づくり

- (1) 調査結果を地図にまとめる
- (2) 地域の水を取り巻く多様な情報から保全・再生活動の検討と計画づくり
 - ・保全対象、場所、活動内容、目標、協力者、参加者、スケジュール、運営体制など

5、水辺の情報収集から地域の生活文化へのまなざしを

- (1) 保全活動や子どもたちの活動と共に里地里山の暮らし・文化への理解とかかわりを
- (2) 活動のさらなる展開へ
 - ・地域作り、生業づくり、そして水辺活動にかかわる子どもたちの多様な可能性へ向けた基盤づくりとして